

## 国際マネーフローレポート No.103

# 2014年の海外投資家の対米証券投資

### 【目次】

- I. 今月のトピックス  
～2014年の海外投資家の対米証券投資
- II. 国際金融市場、国際マネーフローの動向
  1. 主要先進国の金利と為替相場
    - 政策金利 ○長期金利 ○金利差と為替相場
    - 実質実効為替相場 ○株価、実質 GDP 成長率、インフレ率
  2. 世界の流動性
    - 世界の外貨準備 ○世界の通貨当局の米国債・政府機関債投資残高
    - 主要先進国合計のマネーサプライ
  3. 中国とロシアの貿易収支
    - 中国の貿易収支 ○ロシアの貿易収支
  4. オフバランス取引での円ポジション
    - シカゴ通貨先物市場での投機筋による円のネットポジション
  5. 日本をとりまく資本移動
    - 対外証券投資 ○対内証券投資
  6. 米国をとりまく証券投資
    - 対米・対外証券投資 ○海外資本の米国債保有残高
  7. 世界的不均衡
    - 米国の経常収支赤字 ○米国の貿易赤字 ○ドル相場
  8. アジアの株価・為替相場
    - 株価 ○為替相場

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

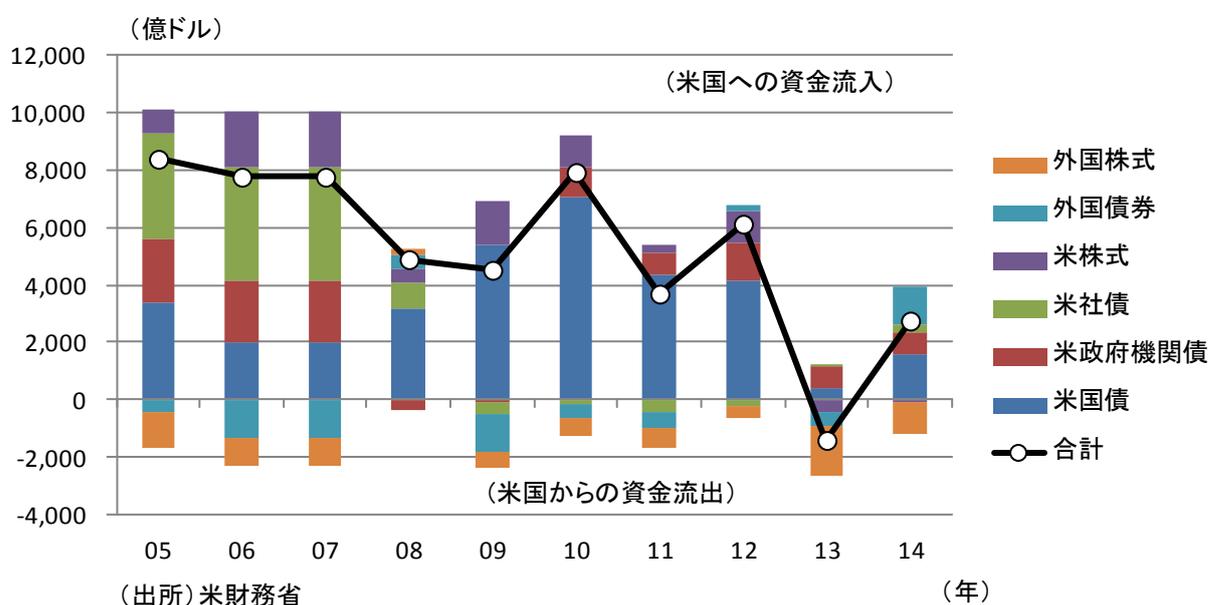
〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

## I. 今月のトピックス～2014年の海外投資家の対米証券投資

米財務省「国際資本統計」によると、証券投資を通じた米国をめぐる資金の動きは、2014年にネットで2,750億ドルの流入超過となった。2013年は1,415億ドルの流出超過であったが、2014年は2年ぶりに流入超過にもどった。海外資本、米国資本の主体別の動きを見ると、海外資本が米株を売り越す一方、米国債、米政府機関債、米社債を買い越してネットで2,465億ドルの資金を米国に流入させ、米国資本が外国株式を買い越す一方、外国債券を売り越してネットで285億ドルの資金を米国に流入させた(図I-1)。

図I-1 証券投資を通じた米国をめぐる資金の動き



米国債をめぐるネットの資金の動きに着目すると、2013年に、海外投資家による買い越し額が従来に比べ大きく減少した。2014年は、2013年に比べれば大きく増加したものの、2012年以前の買い越し幅と比較すると、相対的に低い水準に留まっている。ここ2年ほどの米国債をめぐる世界のマネーのネットでの出入りを見ると、かつてほど世界のマネーが米国債に集まっていなかったのように見えるが、資金の流れをグロスで見ると様子が異なってくる。

(図I-2)は、海外投資家による米国債の買いと売りのグロスでの推移を示したものであるが、2013年、2014年の海外投資家の米国債購入額・売却額は、それ以前と比べても高い水準となっている。海外投資家による米国債需要が細っているわけではないようだ。

資金の流れをネットで見た場合とグロスで見た場合で印象が異なるのは、国別の売買動向でも当てはまる。2014年のネットでの米国債買い越し額を大きい順に並べると、最も大きいのは中国であり、フランス、香港、メキシコ、ブラジルと続いている(図I-3)。一方、同年の米国債のグロスの購入額を上位から順に並べると、英国、ケイマン諸島、フランス、カナダの順となる(図I-4)。中国はネットで見た場合、米国債の最大の購入国であるが、グロスで見た場合、英国、ケイマン諸島、フランスなどに比べれば、売買量はかなり小規模に留まっている。

図 I-2 海外投資家による米国債の買いと売り（グロス）

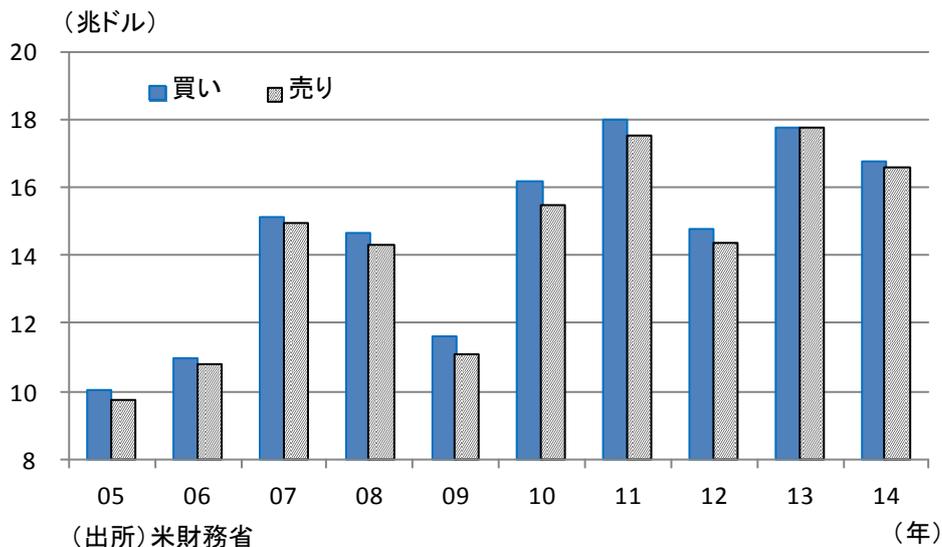
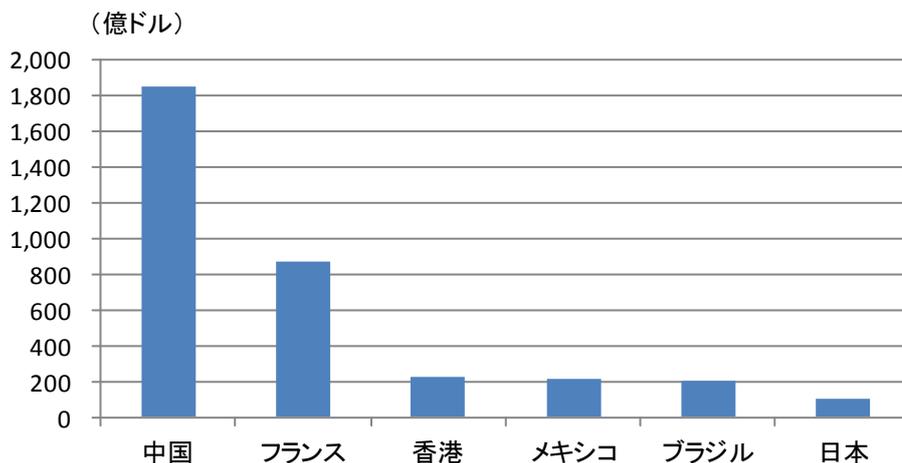
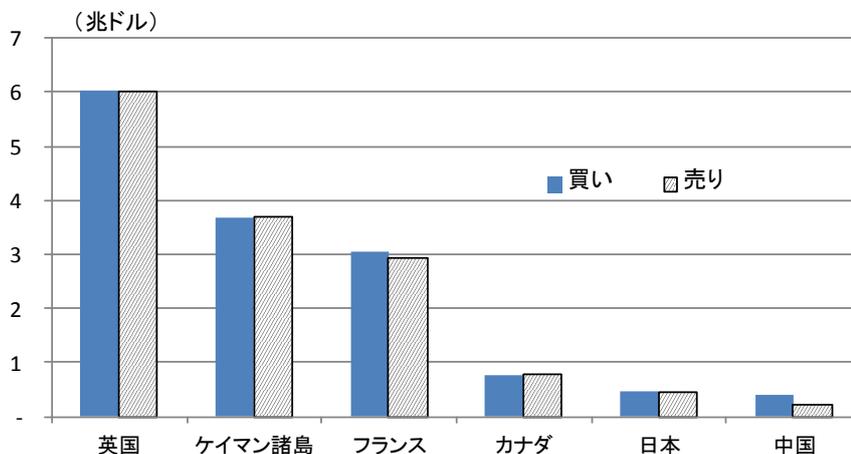


図 I-3 2014年の国別米国債購入額（ネット）



(出所)米財務省

図 I-4 2014年の国別米国債売買額（グロス）



(出所)米財務省

## II. 国際金融市場、国際マネーフローの動向

### 1. 主要先進国の金利と為替相場～ユーロ圏、英国の金融政策は3月は現状維持

#### ○政策金利

##### ◆ユーロ圏

・ECB（欧州中央銀行）は、3月5日の理事会で主要政策金利であるリファイナンス金利を0.05%に、中銀預金金利を-0.20%に、限界貸出金利を0.30%に据え置いた（図II-1）。

##### ◆英国

・BOE（イングランド銀行）は、3月5日のMPC会合で政策金利を0.5%に据え置いた。また、資産買入プログラムの買入規模を3,750億ポンドに据え置いた。

##### ◆米国

・FRB（連邦準備制度理事会）は1月28日のFOMCで、フェデラルファンド金利誘導目標水準を0～0.25%に据え置いた。

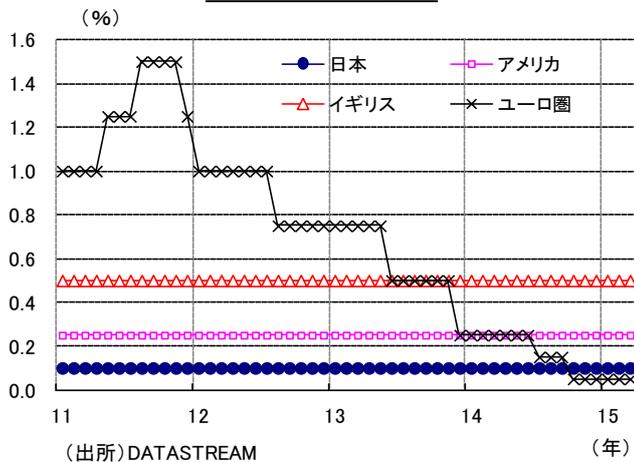
##### ◆日本

・日本銀行は2月18日の金融政策決定会合で、「マネタリーベースが、年間80兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調整を行う」現状の金融政策の維持を決定した。

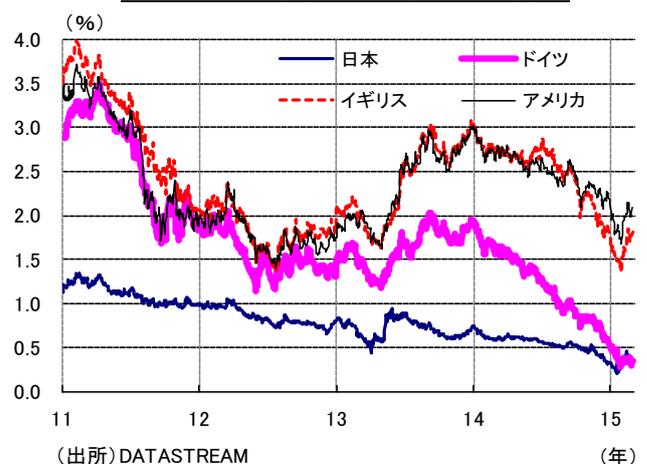
#### ○長期金利（国債10年物利回り）

・2月の日、米、英、独の長期金利は上旬から中旬にかけて上昇した後、低下し、一進一退となった。（図II-2）。

図II-1 政策金利



図II-2 長期金利（国債10年物）



○金利（3ヶ月物）差と為替相場

◆日本と米国

- ・2月の日米の短期金利（3ヶ月物）は、ドルは小幅上昇、円は小幅低下となり、金利差は小幅拡大した（図Ⅱ-3）。
- ・2月のドル円相場は、米国での利上げ観測の高まりなどから、やや円安となった。

◆日本とユーロ圏

- ・2月の日欧の短期金利（3ヶ月物）は、ユーロ、円とも小幅低下となり、金利差は横ばい圏で推移した（図Ⅱ-4）。
- ・2月のユーロ円相場は横ばい圏で推移した。

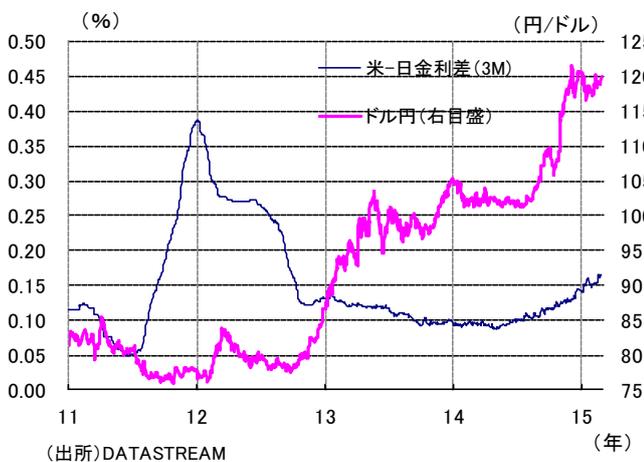
◆日本と英国

- ・2月の日英の短期金利（3ヶ月物）は、ポンドは横ばい、円は小幅低下となり、金利差は小幅拡大した（図Ⅱ-5）。
- ・2月のポンド円相場はやや円安となった。

○実質実効為替相場

- ・2月の実質実効為替相場はドル、円、ポンドが上昇、ユーロが低下した（図Ⅱ-6）。

図Ⅱ-3 米-日金利差とドル円相場



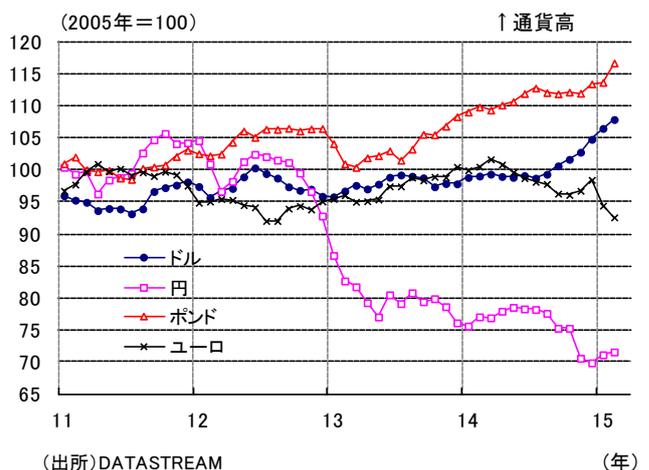
図Ⅱ-4 ユーロ-日金利差とユーロ円相場



図Ⅱ-5 英-日金利差とポンド円相場



図Ⅱ-6 実質実効為替相場



○金利やマネーの動きを左右する株価、景気、インフレ率

【株価】

・2月の主要国の株価は、米国で史上最高値を更新するなど、堅調な推移となった（図Ⅱ-7）。

【実質 GDP 成長率】

・14年10-12月期の実質 GDP 成長率は、日、米、英、ユーロとも前期比年率でプラス成長となった（図Ⅱ-8）。

【消費者物価上昇率】

・1月の消費者物価指数（総合）は、前年比で見て、日、英は上昇、米、ユーロで低下となった（図Ⅱ-9）。ユーロでは、2月も前年比でマイナスとなり3ヶ月連続の低下となった。

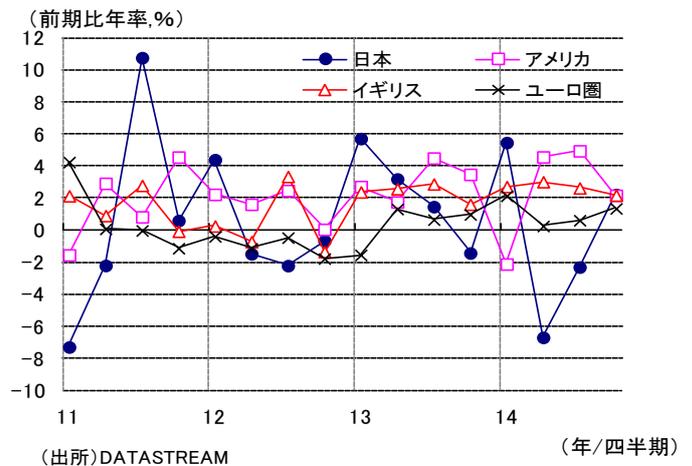
【原油価格】

・2月の原油相場（WTI）は、一進一退の推移となった（図Ⅱ-10）。

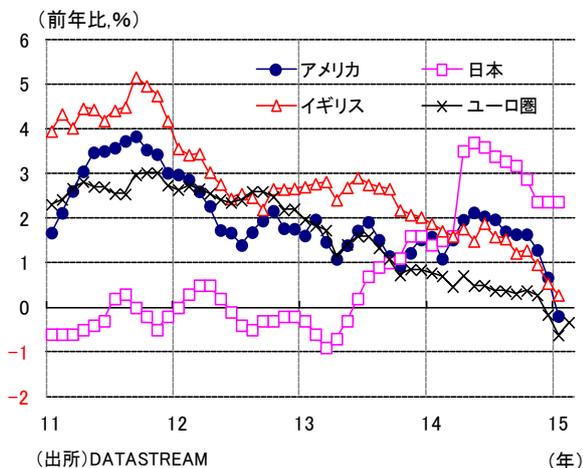
図Ⅱ-7 株価



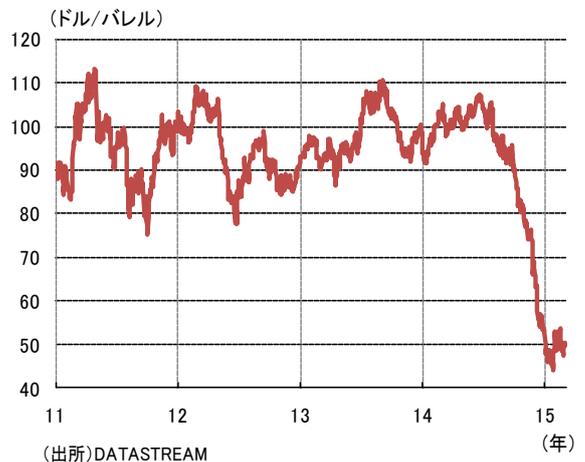
図Ⅱ-8 実質 GDP 成長率



図Ⅱ-9 消費者物価上昇率



図Ⅱ-10 原油価格 (WTI)



## 2. 世界の流動性～世界の外貨準備は対前年比で増加

### ○世界の外貨準備（通貨当局が保有する対外資産）

- ・世界の外貨準備は前年比で見て増加が続いており、12月の伸び率は前年比+5.2%となった（図Ⅱ-11）。中国の外貨準備は、増加が一服し横ばいとなっている（図Ⅱ-12）。

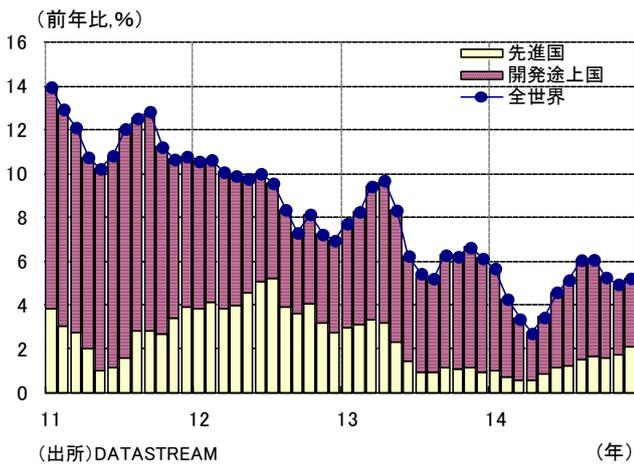
### ○世界の通貨当局の米国債・政府機関債投資残高

- ・1月の世界の通貨当局による米国債保有残高（FRB カストディ残高）は、前年比で-2.0%と4ヶ月連続で減少した（図Ⅱ-13）。

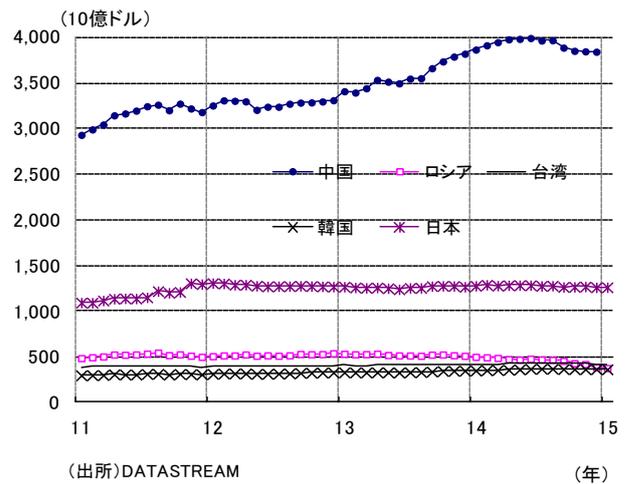
### ○主要先進国のマネーストック

- ・1月の日、米、ユーロのマネーストックは前年比で増加、英は減少となった（図Ⅱ-14）。

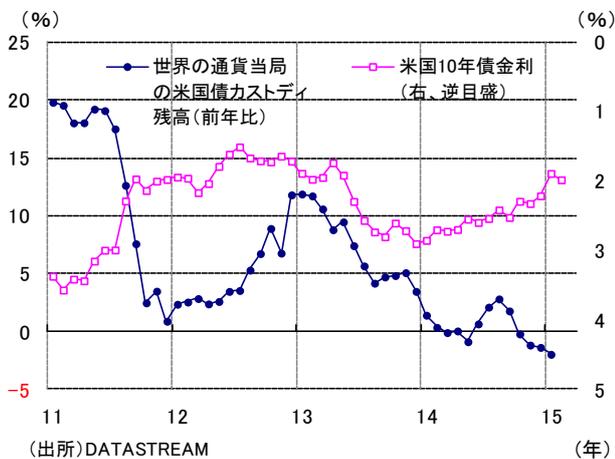
図Ⅱ-11 世界の外貨準備（伸び）



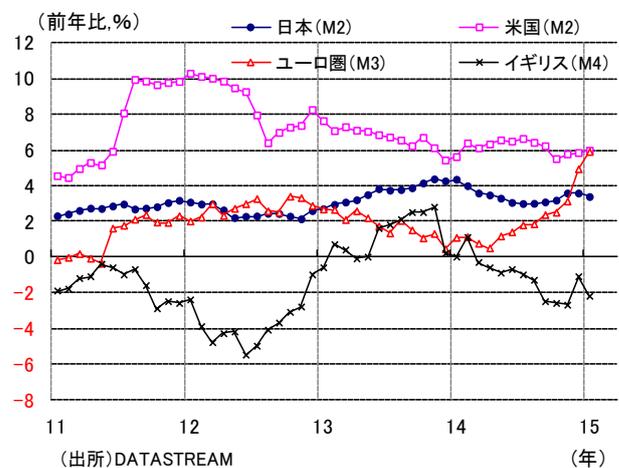
図Ⅱ-12 アジア諸国の外貨準備（水準）



図Ⅱ-13 通貨当局の対米投資と米国金利



図Ⅱ-14 先進国のマネーストックの伸び



### 3. 中国とロシアの貿易収支～2月の中国の貿易収支は606億ドルの黒字

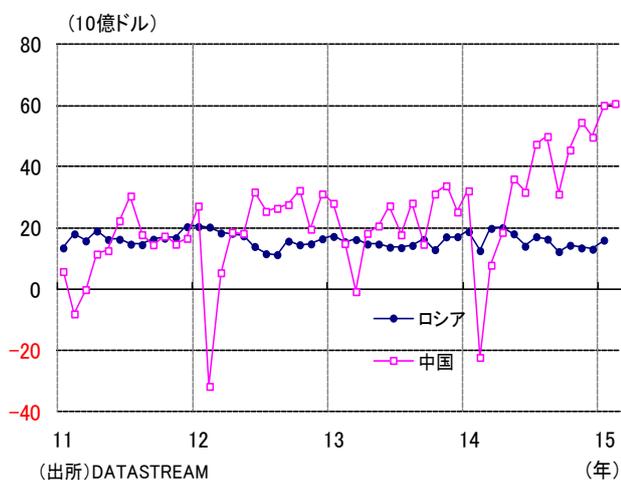
- ・2月の中国の貿易黒字は、606億ドルの黒字となり、前年同月の赤字から黒字に転じた（図Ⅱ-15）。
- ・1月のロシアの貿易黒字は、前年比-36.9%の159億ドルであった。

### 4. オフバランス取引での円ポジション～シカゴでの円ポジションは売り超

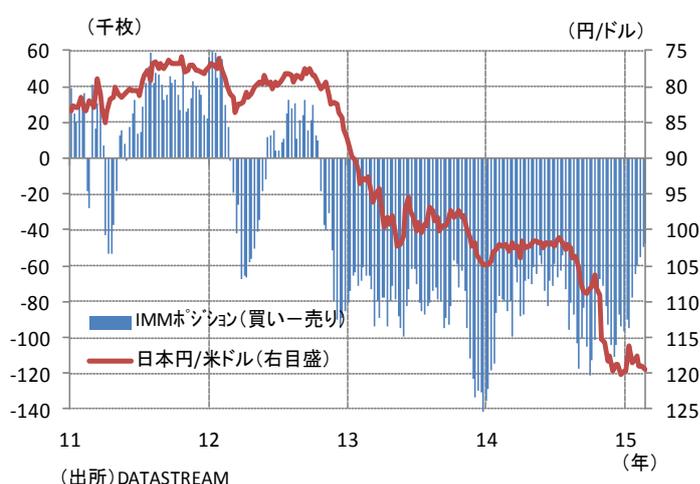
#### ○シカゴ通貨先物市場での投机筋（非商業目的）による円のネットポジション

- ・シカゴ市場での円のネットポジションは、売り超の状態が続いているが、2014年12月以降、売り超幅が縮小してきている（図Ⅱ-16）。

図Ⅱ-15 中国・ロシアの貿易収支



図Ⅱ-16 シカゴ先物市場とドル円相場



## 5. 日本をとりまく資本移動～2月の対内証券投資は、流入超過

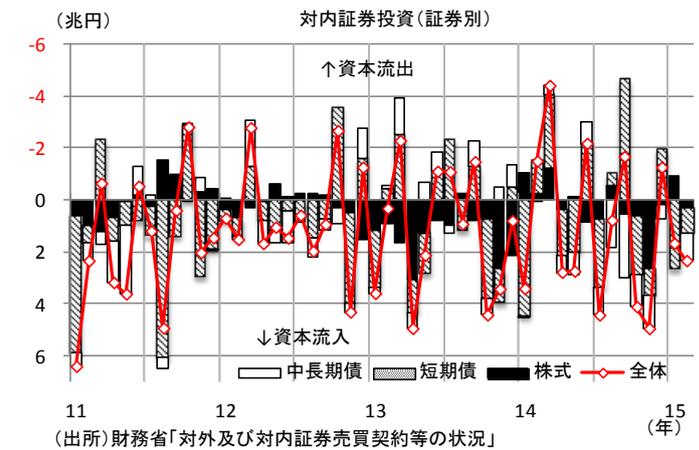
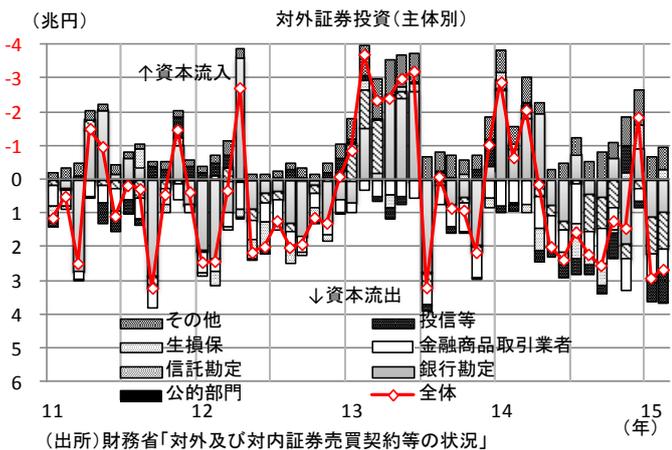
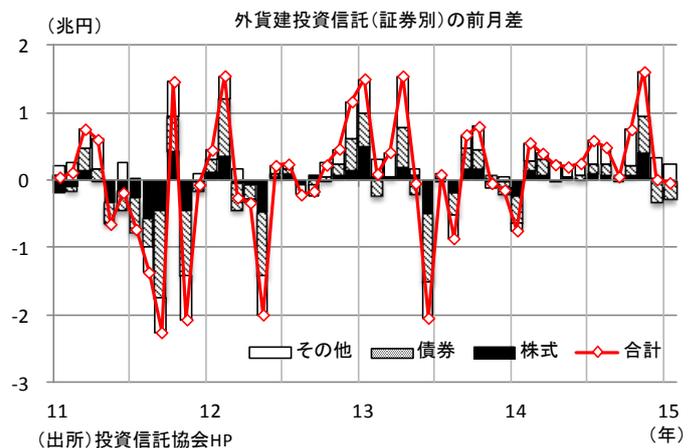
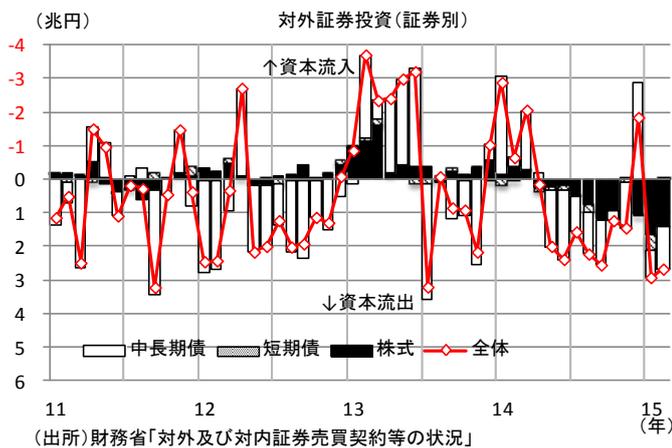
### ○日本の対外証券投資（日本人投資家の海外資産への投資）

- ・2月は2兆6,754億円の流出超過（買い越し）となった。短期債が売り超されたが、中長期債、株式が買い越され、国外に資金が流出した。
- ・1月の外貨建て投資信託残高は、債券型、株式型が減少し、トータルで前月に比べ378億円の減少となった。

### ○日本への対内証券投資（外国人投資家による対日証券投資）

- ・2月は2兆3,322億円の流入超過（買い越し）となった。短期債、中長期債、株式のいずれもが買い越されて、資金が国内に流入した。

図Ⅱ-19 日本をとりまく証券投資



## 6. 米国をとりまく証券投資～12月は米国へ資金が流入

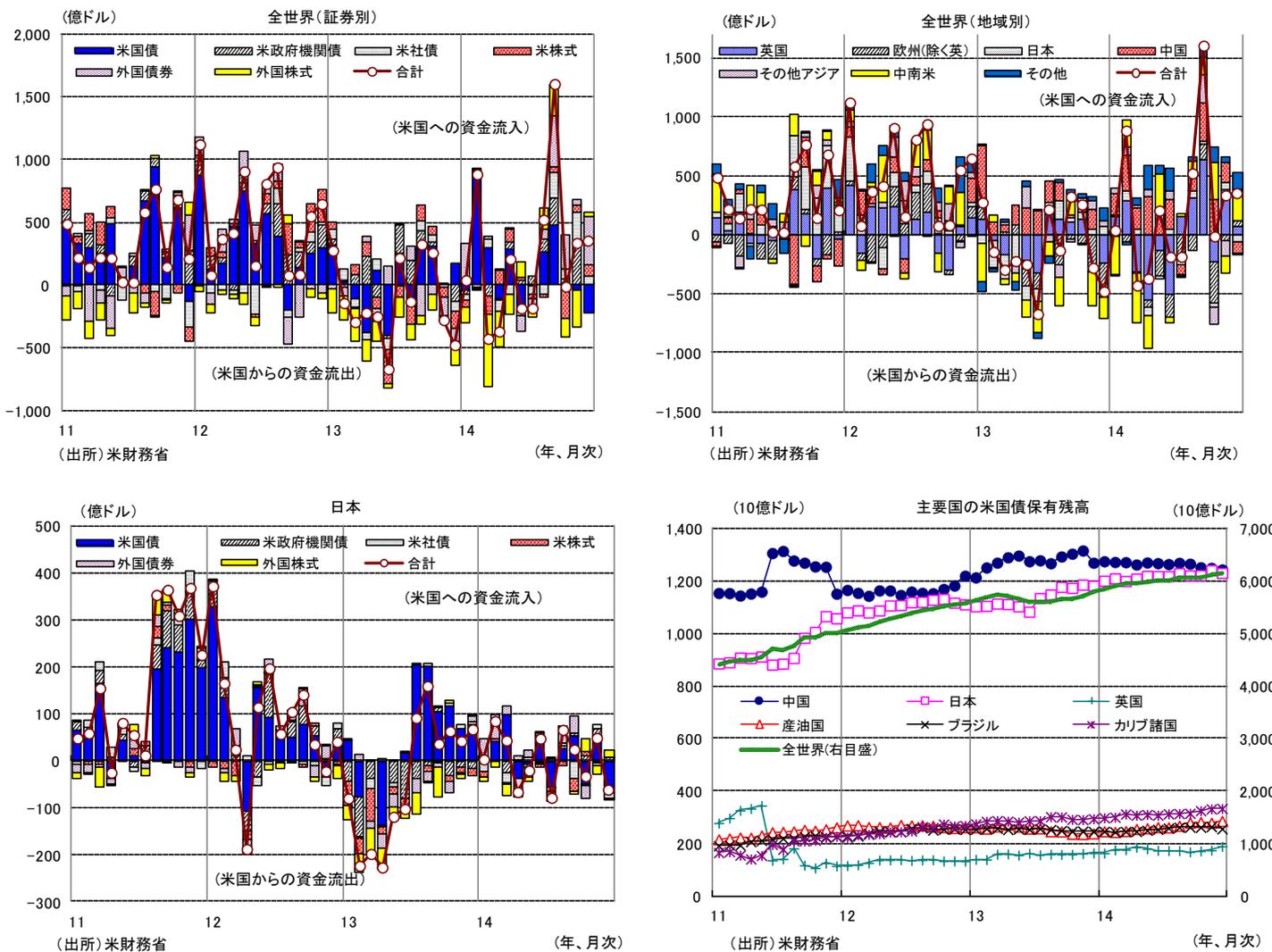
### ○対米・対外証券投資（フロー）

- ・12月の海外資本による対米証券投資は、ネットで58億ドルの売り越しとなり、資金が米国から流出した。米政府機関債、米社債、米株式は買い越されたが、米国債が売り越され、トータルで売り越しとなった。
- ・一方、米国資本は、外国株式、外国債券を売り越して、412億ドルの資金を流入させた。
- ・このため、12月は合計354億ドルの米国への資金流入となった。

### ○海外資本の米国債保有残高（ストック）

- ・12月の海外資本による米国債保有残高は6兆1,537億ドルと前月比で増加した。
- ・ストック残高を国・地域別にみると、大きい順に、中国1兆2,443億ドル、日本1兆2,309億ドル、カリブ諸国3,332億ドル、石油輸出国2,859億ドル、ブラジル2,558億ドルとなっている。

図Ⅱ-20 対米・対外証券投資の動向



## 7. 世界的不均衡～米国の経常赤字（7-9月期）は前期比で拡大

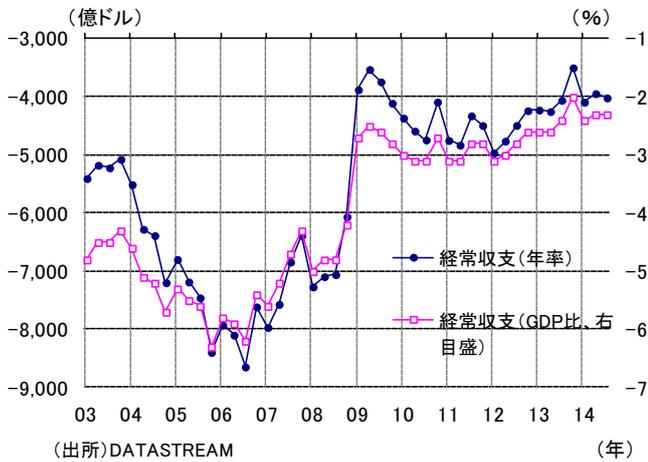
### ○米国の経常収支赤字（グローバルインバランス）

- ・2014年7-9月期の経常赤字は1,003億ドル（年率4,010億ドル、GDP比2.3%）と前期比で拡大した（図II-21）。

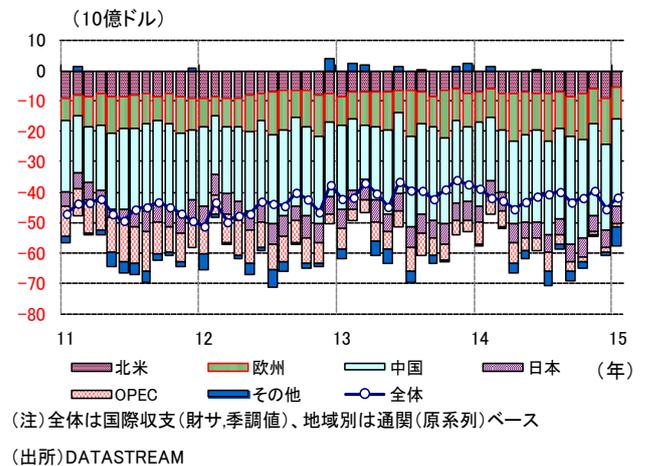
### ○米国の貿易赤字（国際収支・財サービスベース）

- ・1月の貿易赤字は、418億ドル（季調値）と前月比で縮小した（図II-22）。
- ・最大の赤字を計上している中国向けの貿易赤字は286億ドルと前年に比べて赤字幅が拡大した。

図II-21 米国の経常収支



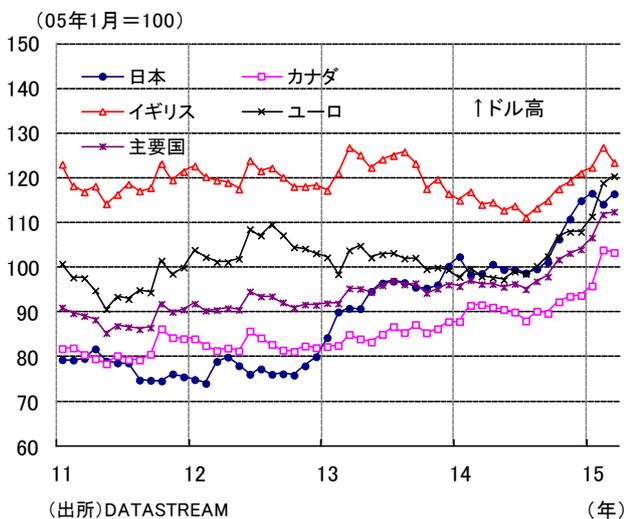
図II-22 米国の貿易収支



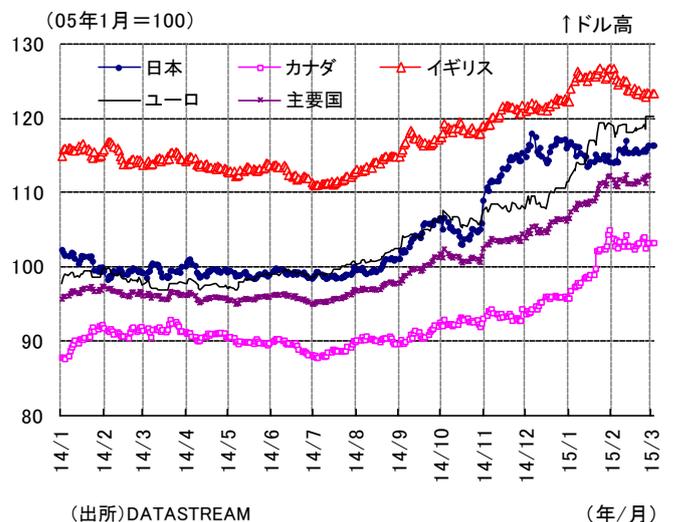
### ○ドル相場

- ・ドル相場は、対主要国で1月にドル高が進んだ後、2月は横ばい圏で推移した（図II-24）。

図II-23 ドル相場（名目、月次）



図II-24 ドル相場（名目、日次）

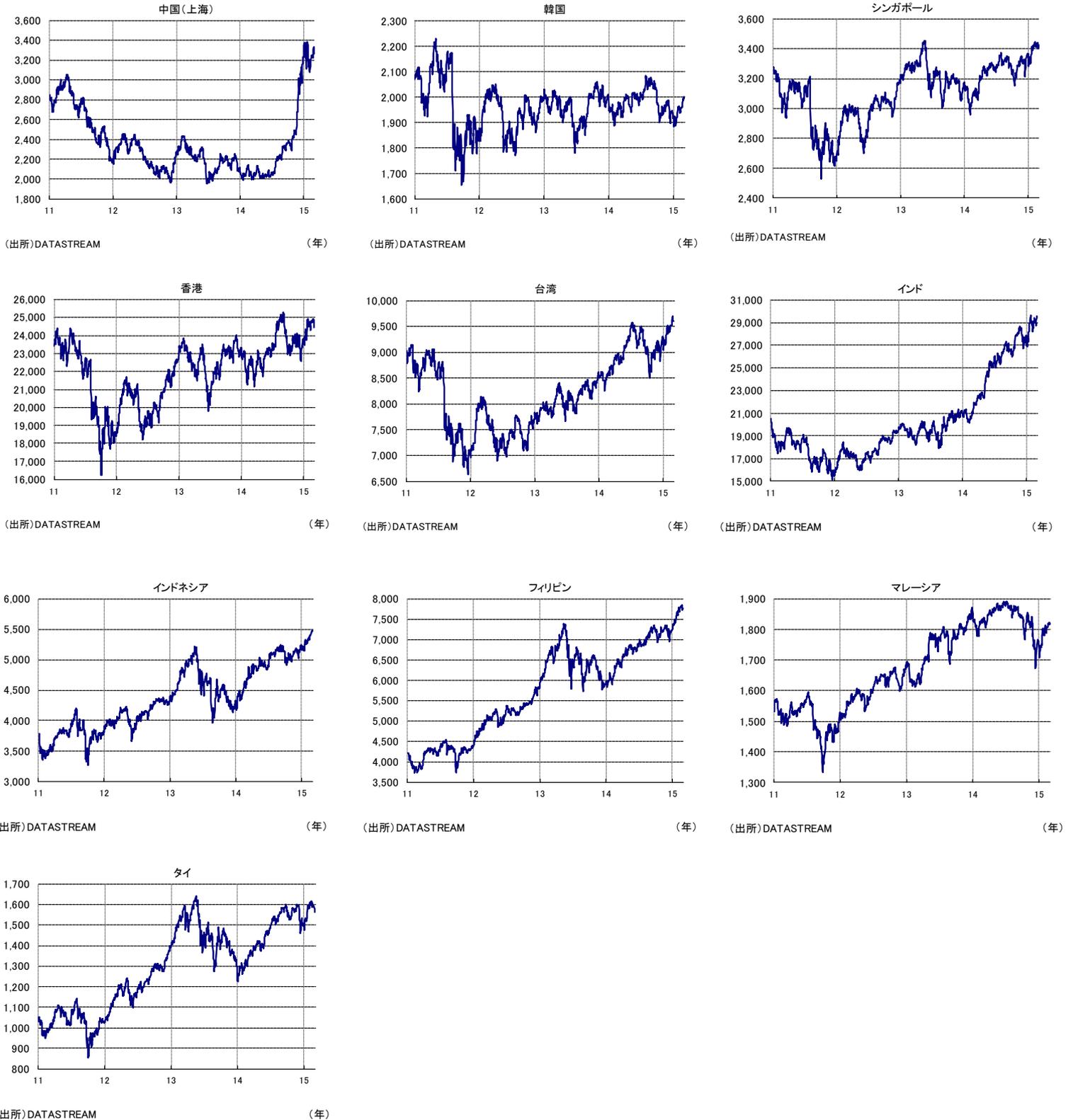


## 8. アジアの株価・為替相場～2月のアジア通貨は対ドルで概ね横ばい

### ○アジア主要国の株価

・2月のアジア株は、シンガポール、香港、インド、タイが横ばいとなったが、その他は堅調に推移した（図Ⅱ-25）。

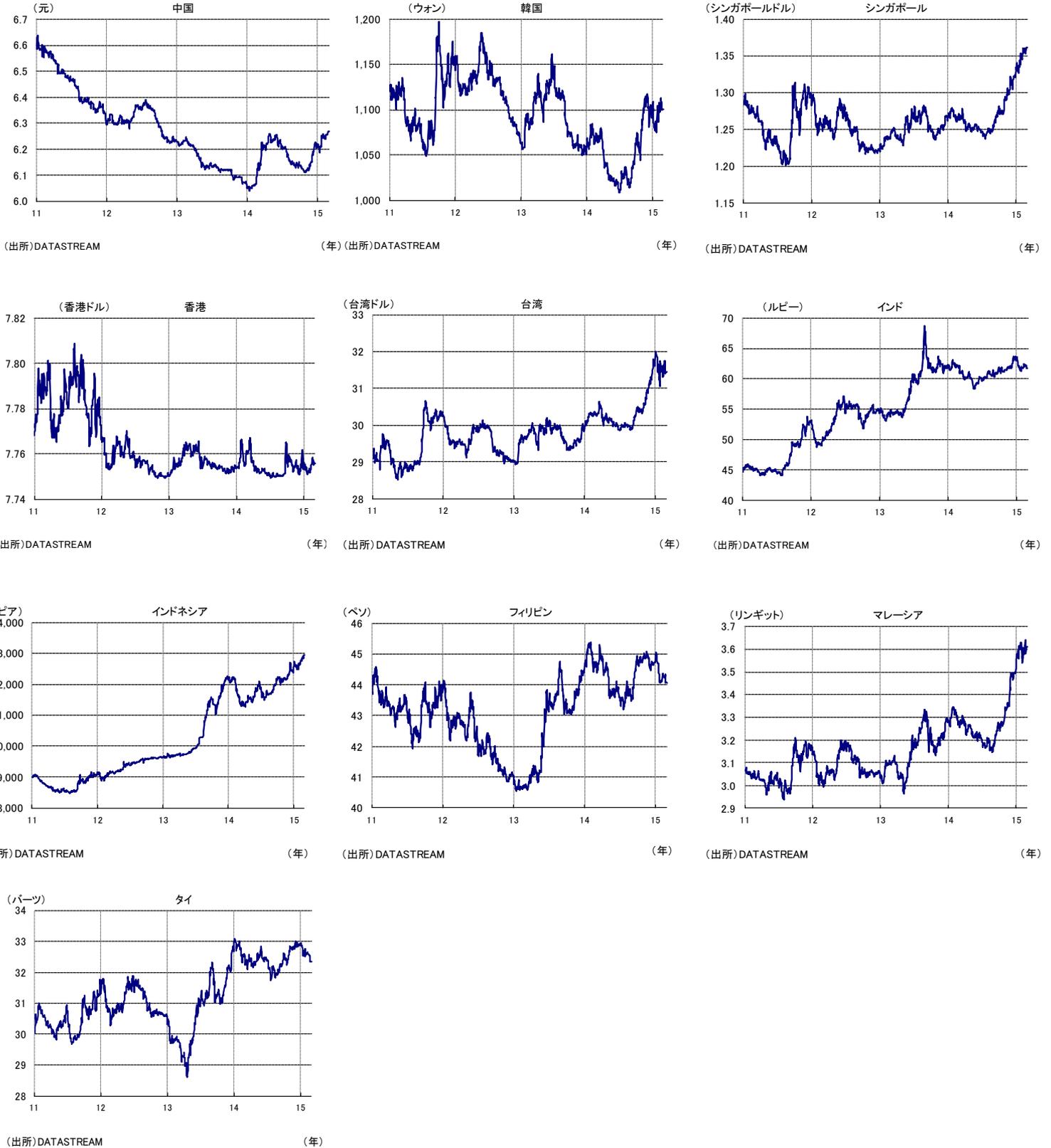
図Ⅱ-25 アジアの株価



○アジア主要国の為替相場

・2月のアジア通貨は、対ドルで概ね横ばいで推移した（図Ⅱ-26）。

図Ⅱ-26 アジアの為替（対ドルレート）



－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。